

旭市農業集落排水事業経営戦略（案）【概要版】

1. 経営戦略改定の趣旨・・・P1-3

経営戦略は、公営企業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための中長期的な経営の基本計画です。

本市では、令和4年3月に「旭市農業集落排水事業経営戦略」を策定し、本年で3年が経過しました。今回、これまでの取組を評価するとともに、見直しを行った「旭市汚水適正処理構想」や「旭市農業集落排水処理施設最適整備構想」に基づく投資計画を反映し、人口減少や物価上昇等の社会情勢の変化に伴う財政計画の見直し等も踏まえた実効性のある計画とするため、本計画を見直しました。

計画期間は、令和7年度から令和16年度（10年間）とします。また、長期目標を設定するために、令和7年度から令和56年度の50年間で試算期間としました。

2. 事業の現状（令和5年度末時点）

(1)事業の概要・・・P4

平成10年度に江ヶ崎地区、平成13年度に琴田地区での農業集落排水処理施設の供用を開始しました。整備率は100%と面整備は完了しています。

区分	項目	単位	農業集落排水事業
供用開始年度			平成10年度(江ヶ崎地区) 平成13年度(琴田地区)
計画値	全体計画人口	人	2,440
	全体計画面積	ha	48
令和5(2023)年度末現状値	行政区域内人口	人	62,280
	処理区域内人口	人	1,600
	水洗化人口	人	1,177
	行政区域面積	ha	13,047
	処理区域面積	ha	48
	普及率	%	2.6
	水洗化率	%	73.6

(2) 農業集落排水の課題・・・P14

使用料で回収すべき経費を、使用料で賄いきれておらず、一般会計繰入金に依存しているため、経費回収率の向上及び基準外繰入金の縮減が課題です。

令和5年度実績	経費回収率	50.39% (類似団体平均値 52.05%)
	使用料収入	15,803 千円
	基準外繰入金	35,298 千円

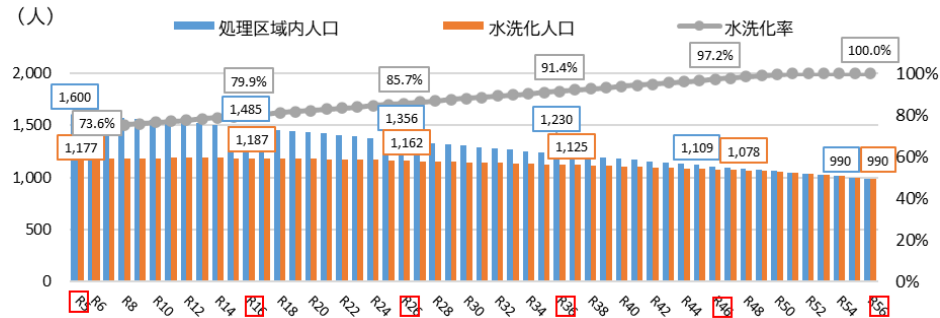
※類似団体…総務省の令和4年度「経営比較分析表」類似団体区分のF2（供用開始15年以上）

3. 将来事業環境の見通し

(1) 水洗化人口と水洗化率の見通し・・・P16

水洗化人口は水洗化率の上昇を見越しているものの、それ以上に処理区域内人口の減少が進行するため、令和 12 年までは増加しますが、長期的には減少する見通しです。

水洗化人口の減少に伴い年間有収水量も減少、使用料収入の減少が予測されます。



※数値の表示は、令和 5（2023）年度は実績値、それ以降は 10 年ごとの予測値を表示しています。

4. 投資・財政計画

(1) 収益的収支の見通し・・・P19, 20

経費回収率の目標を、旭市公共下水道事業の目標値に近い 80%とし、同様に 20 年間で達成を目指すこととしました。令和 9（2027）年度から 5 年ごとの使用料改定を行い、令和 24（2042）年度の改定では、経費回収率が 80%を超えることが見込まれます。使用料収入は、計画期間の 10 年間で約 47 百万円増加する見込みです。

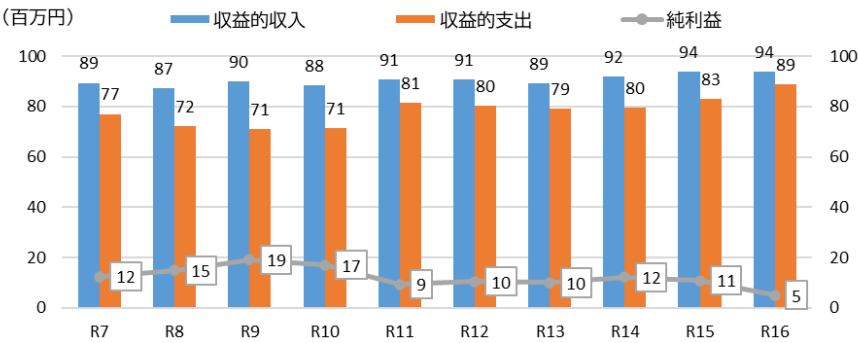
また、不足分を基準外繰入金等で補い、欠損金が発生しないように計画しています。

使用料（1 か月 20 m³あたり・税抜条例上は 3 人世帯）改定の見込みは以下のとおりです。

	現状	令和 9 年度 (2027) ～	令和 14 年度 (2032) ～	令和 19 年度 (2037) ～	令和 24 年度 (2047) ～
条例上	2,900 円	3,773 円	4,320 円	4,515 円	4,722 円
実質的	2,481 円	3,228 円	3,697 円	3,863 円	4,041 円
改定率		30.1%	14.5%	4.5%	4.6%

※実質的な使用料とは、料金収入の合計を有収水量の合計で除した値に 20 m³を乗じたもの

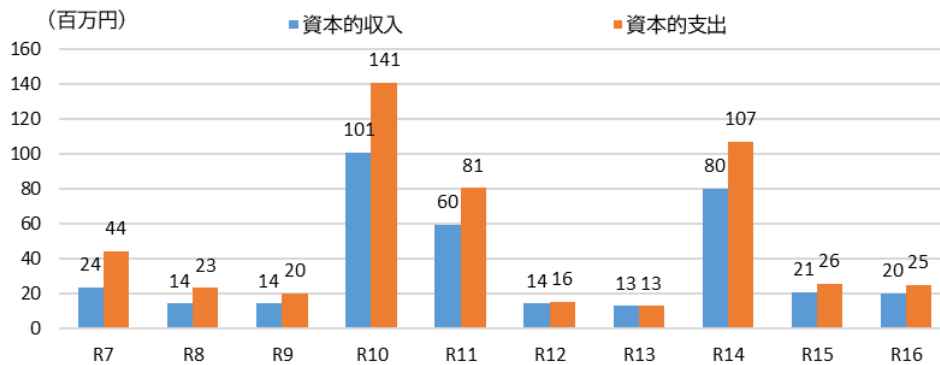
※このとおりに使用料改定を決定したものではありません。



(2) 資本的収支の見通し・・・P22

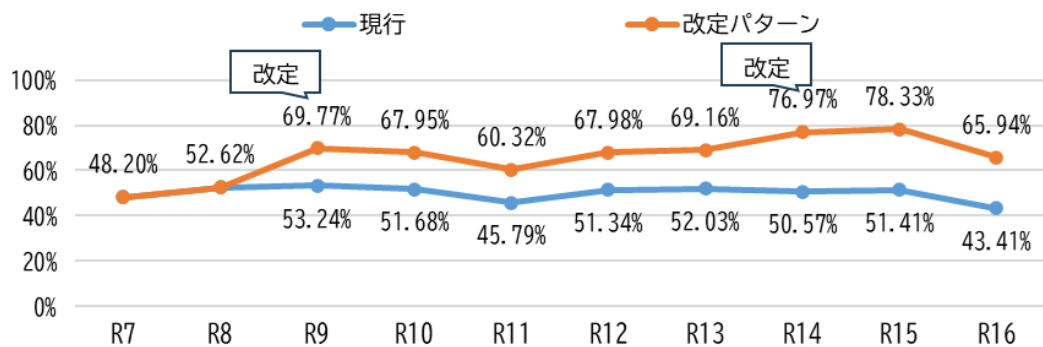
収入は、改築、更新工事が予定されている年度は、建設改良費の増加に比例して企業債が増加します。

支出は、企業債償還金の償還が進むにつれて減少しますが、改築や更新工事が予定されている年度は、建設改良費の増加が見込まれます。

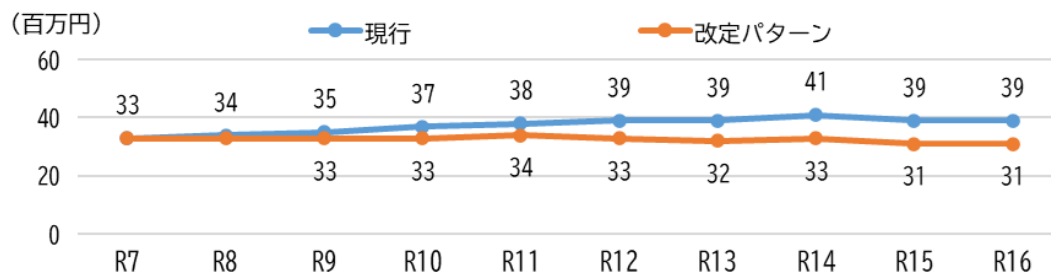


(3) 経営の健全化・効率性・・・P26, 27

現行の使用料を維持した場合と改定した場合の経費回収率は、以下の通りです。



使用料で回収できない污水处理費は、基準外の一般会計繰入金により賄っており、基準外繰入金は、以下の通りです。



5. 経営基盤強化に向けた基本方針

(1) 基本方針・・・P29

- ① 効率的かつ健全に運営する
- ② 施設の長寿命化、ライフサイクルコストの低減及び施設の機能保全を図る
- ③ 財源の確保に努める

(2) 経営目標および健全化、効率化のための取組・・・P29-31

- ① 組織及び人財 （「旭市定員適正化計画」に基づく、適正な定員管理など）
- ② 民間活用 （一括発注方式や性能発注方式の導入の検討など）
- ③ 収納率の向上と滞納額の縮減 （スマホアプリによる決済の種類拡充など）
- ④ 水洗化の促進 （未接続者への戸別訪問等による接続の促進など）
- ⑤ 使用料適正化の検討 （使用料水準の適正化、使用料体系の見直し）
- ⑥ 経費削減 （最適整備構想に基づく的確な設備更新など）
- ⑦ 資金管理調達 （計画的な起債による企業債残高の削減など）
- ⑧ 広域化・共同化・最適化 （千葉県汚水処理広域化・共同化計画など）

(3) 経費回収率の向上に向けたロードマップ・・・P32

人口減少に伴う使用料収入の減少、並びに管路施設の老朽化及び物価上昇による維持管理費の増加により、経費回収率の低下が予測されます。適正な経営を維持するため、経営戦略改定のタイミングで、少なくとも5年に1度、使用料のあり方を検討します。

取 組 内 容	2025 令和 7年	2026 令和 8年	2027 令和 9年	2028 令和10年	2029 令和11年	2030 令和12年	2031 令和13年	2032 令和14年	2033 令和15年	2034 令和16年
経営戦略計画期間										
経営戦略改定					改定					改定
使用料水準の適正化検討	検討		●改定			検討		●改定		検討
収納率の向上と滞納額の縮減										
水洗化率の促進										
最適整備構想による更新										
民間活用や省電力設備導入の検討による経費の削減										

(4) SDGs 達成に向けた施策の推進・・・P33

上下水道サービスを安定的に提供し衛生的な生活環境を守ることが、世界共通の課題として位置づけられています。

SDGs の視点を取り入れた持続可能な取り組みを推進します。



6. 経営戦略の事後検証、改定などに関する事項・・・P34, 28

本経営戦略については、PDCA サイクルに基づき、計画の策定（Plan）/事業の実行（Do）/達成度の評価（Check）/改善（Action）を行い、フォローアップしていきます。達成度の評価及び改善については、モニタリング及びローリングにより実施します。

モニタリングは、投資計画の進捗確認と財政状況の確認を毎年度実施します。

ローリングは、おおむね 5 年ごとに本経営戦略の見直しを行います。

項目		単位	望ましい動き	令和5(2023)年度		令和11 (2029) 年度目標	令和16 (2034) 年度目標
				実績	類似団体平均値		
経営の健全性	経常収支比率	%	↑	124.44	106.35	111.38	105.61
	累積欠損金比率	%	↓	—	129.89	—	—
	流動比率	%	↑	159.74	44.04	221.45	463.55
	企業債残高対事業規模比率	%	↓	—	839.21	—	—
経営の効率性	経費回収率	%	↑	50.39	52.05	60.32	65.94
	汚水処理原価	円	↓	246.22	301.86	267.62	280.32
	水洗化率	%	↑	73.56	83.96	77.04	79.93
その他	企業債残高	百万円	↓	151	—	178	182
	一般会計からの繰入金	百万円	↓	55	—	50	46
	基準外繰入金	百万円	↓	35	—	34	31